

## 岩手県金融経済概況（平成 25 年 7～8 月）

### 1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復を続けている。

最終需要動向をみると、個人消費は、夏場の天候不順等の影響から前年割れとなったが、公共投資、住宅投資は、高い伸びを維持している。

鉱工業生産には、持ち直しに向かう動きもみられる。

雇用情勢は、引き続き改善している。

### 2. 最終需要

#### (1) 個人消費

7～8月の個人消費関連指標は、前年対比マイナスとなった。

百貨店売上高、スーパー売上高は、天候不順（7月の低温、長雨、8月の集中豪雨等）の影響から季節衣料品が前年割れとなったことを主因に、前年を下回った。

新車登録台数は、高水準であった前年対比でマイナスながら（前年比：平成 25 年 7 月 ▲13.2% → 8 月 ▲11.1%）、例年対比では、高い水準を維持している（過去 5 年間平均比：平成 25 年 7 月 +7.2% → 8 月 ▲1.3%）。

#### (2) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

公共投資は、震災復旧工事を中心に高水準の伸びを続けている（公共工事請負額の震災前 5 年間<平成 18～22 年>平均値比：平成 25 年 1～3 月 2.3 倍 → 4～6 月 2.9 倍 → 7～8 月 +71.8%）。

民間設備投資（短観ベース）は、平成 24 年度に震災復旧対応投資を中心に前年を上回った後、平成 25 年度は、製造業、非製造業とも前年度を下回る計画。

—— もっとも、6 月短観の結果をみると、前回（3 月）調査比では、製造業が下方修正となる一方、非製造業では、建設業を中心に計画を上方修正する動きが目立っている。

住宅投資は、震災関連建替需要等から増加している。

こうした状況を反映して、県内の官民建設工事全体の出来高（建設総合統計）

は、引き続き高い伸びとなっている(過去5年間平均比:平成25年1~3月+58.5% → 4~6月+49.2% → 7月+53.1%)。

### 3. 生産動向

製造業生産については、輸送用機械、窯業・土石が高水準の操業を維持している中、輸出関連業種(一般機械、電子部品・デバイス等)に下げ止まりの動きもみられる。

こうした状況下、6月の県内鉱工業生産指数は、季調済前月比ベースで3ヵ月振りにプラスとなった(季調済前月比:平成25年3月+16.4% → 4月▲14.4% → 5月▲3.9% → 6月+1.2%)。

### 4. 雇用、所得の動向

雇用情勢は、改善している。

7月の有効求人倍率は1.03倍となり、5月以降3ヵ月連続して有効求人数が有効求職者数を上回っている。

7月の雇用保険被保険者数(民間企業中心の全数調査)は、356,096人(前年比+1.5%)と5月以降3ヵ月連続してピークを更新した。

この間、名目賃金指数は、特別給与の増加もあって前年を上回っている。

こうした状況下、雇用者所得(県内合計値)は、足許2ヵ月連続で前年比プラスとなっている(平成25年4月▲2.2% → 5月+2.0% → 6月+4.4%)。

### 5. 企業倒産

企業倒産は、7~8月合計で8件、10.3億円となった。

—— 件数は、前年(6件)を上回ったが、金額は、前年(13.7億円)を下回った。

### 6. 金融面の動向

県内金融機関の預金は、個人、法人が前年を上回って推移しているほか、公金も前年比高い伸びを続けていることから、全体でも前年を上回った(残高前年比<銀行>:平成25年3月末+8.0% → 6月末+7.1% → 7月末+4.8%)。

県内民間金融機関の貸出は、緩やかな増加を示している(同:平成25年3月末+8.4% → 6月末+8.3% → 7月末+7.7%)。

この間、貸出約定平均金利は総じて低下傾向にある。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>